

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地	
ハーベスト医療福祉専門学校		平成 20 年 3 月 31 日		杉本健三		〒670-0962 兵庫県姫路市南駅前町 91-6 (電話) 079-224-1777	
設置者名		設立年月日		代表者名		所在地	
学校法人摺河学園		昭和 23 年 3 月 31 日		摺河美代子		〒670-0964 兵庫県姫路市豊沢町 83 (電話) 079-224-1711	
目的		医療に携わる人間として必要な教養とコミュニケーション能力を体得して、常に自分で考えながら行動し、成長できる人格形成を促す。また、理学療法士として必要とされる知識・技術・豊かな心を養い、医療分野をはじめとする地域社会に広く貢献できる人材を育成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼夜別)	全課程の修了 に必要な総授 業時数又は総 単位数	専門士の付与	高度専門士の 付与	
医療	医療専 門課程	理学療法学科 (昼間部)	3 年 (昼)	3,615 単位時間	平成 21 年 2 月 27 日付文部科 学省告示第 21 号	-	
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技	
		1,695 単位時間	660 単位時間	-	1,260 単位時間	-	
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数	
180 人		158 人		9 人		29 人	
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■前期：4 月 1 日から 9 月 30 日 ■後期：10 月 1 日から 3 月 31 日 			成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ■成績表：有 ■成績評価の基準・方法について： 各科目所定の講義を 2/3 以上出席し ており、成績が 60 点以上の者を単位 認定している。 		
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■学年始め：4 月 1 日 ■夏 季：4 週間 ■冬 季：2 週間 ■学 年 末：3 月 31 日 			卒業・進級 条件	<ul style="list-style-type: none"> ①進級条件としては、当該年度のすべ ての科目を修得すること。 ②卒業の条件はすべての科目を修得 すること。 		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制：有 ■長期欠席者への指導等の対応： 保護者と面談及び生活指導 			課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類： ボランティア活動への参加 ■サークル活動：有 		

主な就職先	<p>■主な就職先、業界：医療業界</p> <p>■就職率※1：100%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合※2：87%</p> <p>(平成26年度卒業者に関する平成27年5月時点の情報)</p>	主な資格 ・検定	理学療法士免許
中途退学者の現状	<p>■中途退学者：18名</p> <p>■中退率：11.8%</p> <p>平成26年4月1日在学者：152名（平成26年4月入学者を含む）</p> <p>平成27年3月31日在学者：134名（平成27年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由：思い描いている職業ではなかった。</p> <p>■中退防止のための取り組み：将来の自己の理学療法士像の形成。</p>		
ホームページ	URL：http://www.harvest-school.com/		

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

実習先や業界団体の役職員、専門の講師を教育課程編成委員として委嘱し、実践的な職業教育の質を保証する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 27 年 5 月 1 日現在

名 前	所 属
廣岡 徹	兵庫教育大学 客員教授 (学校経営)
下山 治男	兵庫県理学療法士会前中播磨ブロック長
岩橋 由梨	有限会社ハーティ (訪問看護ステーション) 法人本部部長代理
田中 洋三	姫路市介護サービス第三者評価機構 理事長
吉田 弘子	ヘルパーステーションだいたう 介護福祉士
萩原 勝義	姫路市保育協会 会長
正木 竜哉	瑠璃保育所 所長
福田 忠浩	姫路薬剤師会 副会長
岸田 憲治	ゴダイ株式会社 (ドラッグストア) 開発本部長兼経営企画室長
杉本 健三	ハーベスト医療福祉専門学校 校長
堀 健児	ハーベスト医療福祉専門学校 副校長
北浜 伸介	ハーベスト医療福祉専門学校 教頭兼理学療法学科長
益永 万里	ハーベスト医療福祉専門学校 介護福祉学科長
北野 実千代	ハーベスト医療福祉専門学校 リトミック保育学科長
西村 彰範	ハーベスト医療福祉専門学校 教頭兼医薬健康学科長
小寺 正人	ハーベスト医療福祉専門学校 教務部長

(開催日時)

第 1 回 平成 26 年 10 月 22 日 9:00~10:05

第 2 回 平成 27 年 2 月 6 日 9:00~10:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

①企業で求められる人材として必要な知識及び技術を確認し、到達目標を設定する。

②企業等の関係者の協力を得て、学生に知識と技術の習得を推進し、望ましい理学療法士像を形成する。

科目名	科目概要	連携企業等
理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価に関する知識と技術の修得	野瀬病院
理学療法実習	医療面接の実施とバイタルサインの実施確認	ハーティ訪問看護ステーション
臨床実習	理学療法業務の実施および考察	萩原整形外科病院、姫路第一病院、石川病院

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校の教育理念を具現化し、その職責を遂行するために行う。職員研修は、新任・中堅・管理職研修からなる。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年7月1日現在

名 前	所 属
廣岡 徹	兵庫教育大学 客員教授 (学校経営)
岩橋 由梨	有限会社ハーティ (訪問看護ステーション) 法人本部部長代理
田中 洋三	姫路市介護サービス第三者評価機構 理事長
萩原 勝義	姫路市保育協会 会長
岸田 憲治	ゴダイ株式会社開発本部長兼経営企画室長
安積 秀幸	兵庫県播磨高等学校 副校長
平 勝彦	南駅前町 自治会長
牧鶴美智代	保護者
高田 明則	同窓会長 理学療法士
杉本 健三	ハーベスト医療福祉専門学校 校長
堀 健児	ハーベスト医療福祉専門学校 副校長
西村 彰範	ハーベスト医療福祉専門学校 教頭兼医薬健康学科長
北浜 伸介	ハーベスト医療福祉専門学校 教頭兼理学療法学科長
益永 万里	ハーベスト医療福祉専門学校 介護福祉学科長
北野実千代	ハーベスト医療福祉専門学校 リトミック保育学科長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.harvest-school.com/>

- ・企業等との指導者会議で、教育課程表などとともに配付する。
- ・学生募集対象高校の進路担当部に、募集資料とともに配付する。

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.harvest-school.com/>

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科昼間部) 平成 27 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			心理学	心理学に関わるできるだけ幅広い領域の特に重要と思われる事項について理解する。	1 前	30	2	○		
○			生命倫理学	生命倫理に関わる諸問題を広く浅く取り扱う。	1 前	30	2	○		
○			研究法概論	医療分野における研究の必要性を学習した上で、基礎研究および臨床研究に必要な、研究モデルの作成・データの解釈について学んでいく。	2 後	30	2			
○			情報処理科 学	PCによるレポート作成に必要なソフトウェアの使い方を習得する。	1 前	30	1		○	
○			健康科学 I	自分自身の健康に関心を持ち、自ら適切な健康管理を行うための基礎知識の習得を目指す。健康への理解を深めることで、人々の健康回復・保持増進にかかわる支援の必要性を理解する。	1 前	30	2	○		
○			健康科学 II	自分自身の身体のケアとコンディショニングをスポーツやトレーニングを通して経験する。また障害者スポーツを体験する。	1 後	30	2	○		
○			統計学	理学療法の臨床効果ならびに科学的実践に結びつけるための論文の読解力を培う。 統計学の基本、基本的統計から統計の応用的活用について学習する。	2 後	30	2	○		

○		英語	病院内のいろいろな場面での英会話を通して、英文法、発音、読み、書き、リスニング、スピーキング等を学び、総合的な英語力の向上をめざす。	1 前	30	2	○		
○		医学英語	医療・福祉施設では、医学英語が使用される事が多い。将来、理学療法士として、英語文献の読解、国際社会での研究発表では必須である。	1 後	30	2	○		
○		解剖学Ⅰ	人体の基礎構造を学び、理学療法士として必要な臨床医学との関連性について知識を深める。	1 前	60	4	○		
○		解剖学Ⅱ	人体の基本構造を学び、理学療法士として必要な臨床医学との関連性について知識を深める。	1 後	30	2	○		
○		解剖学実習	解剖学Ⅰで学んだ人体の基本構造を復習し、より理解を深める。	1 後	45	1			○
○		生理学Ⅰ	人の身体の働きを学ぶ学問であり、健康や病気を理解するためには欠かすことのできないものである。理学療法士に必要な身体生理を学ぶ。	1 前	60	4	○		
○		生理学Ⅱ	人の身体の働きを学ぶ学問であり、健康や病気を理解するためには欠かすことのできないものである。理学療法士に必要な身体生理を学ぶ。	1 後	30	2	○		
○		生理学実習	生理学は人の身体の働きを学ぶ学問である。生理学実習では、生理学で学んだ知識に関して、実体験を通じて理解を深める事を目的とする。	1 後	45	1			○
○		運動学総論	運動学の知識は理学療法士の基盤である。 運動学の基礎を理解し、力学的観点から関節運動や動作を考え、客観的に説明できる能力を身につける。	1 前	30	2	○		
○		運動学各論	各関節の運動の特徴を知る。正常動作の基本を学ぶ。	1 後	30	2	○		

○			運動学実習	1年時に学習した基礎を活かして、実際に運動・動作の分析を行う。機器を使用して、筋活動などを視覚的に確認し、今後の臨床に活かす。	2前	45	1			○
○			機能解剖学	解剖学の知識をもとに、実際に体表から主たる骨、筋、神経、血管の触知を行えるようになることを目的とする。	1後	60	2			○
○			人間発達学	1. 人間の胎児期、新生児期、乳児期に焦点をあて、発達の視点を理解する。2. 身体や運動機能、知的、心理的、社会的発達を理解する。	1前	30	2	○		
○			臨床心理学	「こころのケア」とは何か、それを必要とする人とどのように関わるか、その基本的態度を考える事を狙いとします。	1後	30	2	○		
○			病理学	医療従事者を目指す上で、必要な様々な疾病の原因及び、その病態について理解を深める。	1後	30	2	○		
○			障害学Ⅰ	本講義では、障害のとらえ方、評価の行い方、問題点の抽出の仕方など、一連の理学療法の流れに沿って障害を理解するとともにその方法についても理解を深めることを目的とする。	2前	30	2	○		
○			障害学Ⅱ	本講義では、障害のとらえ方、評価の行い方、問題点の抽出の仕方など、一連の理学療法の流れに沿って障害を理解するとともにその方法についても理解を深めることを目的とする。	2後	30	2	○		
○			整形外科Ⅰ	整形外科疾患の特徴と診断方法、治療を学び、理学療法との関連について理解する。	1前	30	2	○		
○			整形外科Ⅱ	整形外科疾患の特徴と診断方法、治療を学び、理学療法との関連について理解する。	2前	30	2	○		

○			内科学Ⅰ	実務の現場では、様々な内科的疾患を持った方に対して理学療法を行うことが多い。十分な対応ができるよう、内科の知識を習得することを目的とする。	1 前	30	2	○		
○			内科学Ⅱ	実務の現場では、様々な内科的疾患を持った方に対して理学療法を行うことが多い。十分な対応ができるよう、内科の知識を習得することを目的とする。	1 後	30	2	○		
○			小児科学	小児科学とは何かを理解する。また、小児科領域における理学療法の役割を理解する。	1 後	30	2	○		
○			神経内科学Ⅰ	本講義では、神経系の解剖や生理、神経症候学などの総論について概説する。	1 後	30	2	○		
○			神経内科学Ⅱ	脳出血、脳梗塞、パーキンソン病、筋萎縮性硬化症、失調症、末梢神経損傷、脊髄小脳変性症など神経・筋系に起因する運動機能障害の成因、病態に関する知識について概説する。	2 前	30	2	○		
○			精神医学	精神医学への興味、精神障害者への理解を深めることを目的とする。	1 前	30	2	○		
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションとは何かを理解し、障害者と社会との関係を歴史的見地から探究し、我が国のリハビリテーションに関する諸制度や患者・障害者に関する諸システムを理解する。	1 前	30	2	○		
○			リハビリテーション医学	リハビリテーション医療の学問的基盤となるリハビリテーション医学について、その概略を解説し、各疾病の、概念や検査、治療方法などについて、基本的事項を習得する。	1 前	30	2	○		

○			理学療法概論	本講義では、理学療法の基本的な考え、専門性、役割を理解することを目的とする。理学療法の今後と展開についても説明を行う。	1 前	30	2	○		
○			関係職種論	リハビリテーションに従事するそれぞれの専門職の役割と視点を理解し、患者を病気や障害だけでなく「生活する人」として捉えて、リハビリテーションの協業を熟考する場とする。	2 後	30	2	○		
○			理学療法演習	理学療法・理学療法士とは何かを理解する。現在、学内で学んでいることが、臨床にどう活かされていくのかを学ぶ。また、臨床の理学療法・理学療法士の役割を理解する。	2 後	30	1		○	
○			症例研究 I	実習地で経験させていただいた症例を発表、学生間で検討することにより、より多くの情報を共有し知見を広げることを目的とする。	3 前	60	2		○	
○			症例研究 II	国家試験問題を検討する。	3 後	60	2		○	
○			理学療法研究法	基本的態度と能力を養うことを目的に、担当教員の指導のもと、学生毎にテーマを定めて研究活動を行い、口述発表を行う。	3 後	90	3		○	
○			理学療法評価学 I	本科目では理学療法評価の目的や意義、方法について基本的知識を学ぶと共に、それらを臨床実践に結び付けることをねらいとする。	1 後	60	3	○	△	
○			理学療法評価学 II	本科目では理学療法評価の目的や意義、方法について基本的知識を学ぶと共に、それらを臨床実践に結び付けることをねらいとする。	2 前	60	3	○	△	
○			疾患別動作分析学	総合的な知識を用い、姿勢・動作の観察から統合と解釈を V T R等を用いて学ぶ。	2 後	60	3	○	△	

○		日常生活活動Ⅰ	一人の人間が独立して生活するために行う、基本的な身体動作を理解する。	2 前	30	2	○		
○		日常生活活動Ⅱ	基本的な ADL 援助技術を身に付け、障害者の生活の多様性に柔軟に対処できるようになる。	2 後	60	2		○	
○		運動療法Ⅰ	本講義では、解剖学・生理学の復習と運動の基礎を中心に学び、関節可動域運動や筋力増強運動等の基本的な治療技術を体得できるようになることを目的とする。	2 前	60	3	○	△	
○		運動療法Ⅱ	本講義では、運動療法の基礎について学び、関節可動域運動や筋力増強運動等の基本的な技術の体得を図ることを目的としている。	2 後	60	3	○	△	
○		物理療法	物理療法の定義、目的を理解する。物理刺激が生体に及ぼす生理学的作用を理解する。	2 前	60	3	○	△	
○		義肢装具学	リハビリテーションにおける義肢装具の目的と役割を理解する。	2 前	60	3	○	△	
○		運動器疾患理学療法	運動器とは身体を支え、動かす器官で骨、筋、関節、靭帯、腱、脊髄、末梢神経の事を言う。その運動器の障害と理学療法を学習する。	2 前	30	1		○	
○		スポーツ疾患理学療法	スポーツ疾患における理学療法、アスレティックリハビリテーションを学習する。また各スポーツにおける競技特性を学習し、スポーツ傷害原因を考える。	2 後	30	1		○	
○		脳血管理学療法Ⅰ	脳血管障害は中枢神経系がダメージを受けるため障害象は複雑化を極める事が多い。脳血管障害という疾患は理学療法の現場で最も相対する機会の多いこともあり総合的な理解を目指す。	2 前	30	1		○	

○		脳血管理学療法Ⅱ	脳血管障害の理学療法評価及び基本治療（理学療法）について学習する。	2 後	30	1		○	
○		神経・筋障害理学療法	臨床場面で接する機会の多い神経筋の病態と理学療法について教授する。	2 前	30	2		○	
○		発達障害理学療法	小児理学療法の概要について理解を深めると同時に、理学療法を実施するための小児理学療法評価、正常発達、さらに理学療法プログラム及び、基本的な治療技術を学ぶ事を目的とする。	2 後	30	2		○	
○		内部疾患理学療法	内部疾患の理学療法の評価と治療について臨床現場をイメージできるように講義していく。	2 後	30	2		○	
○		生活環境論	この授業では、障害者を取りまく環境を十分に把握し、障害者の身体状況や精神的側面に配慮したよりよい環境整備の方法や関連する法的諸制度について教授する。	2 前	15	1		○	
○		地域理学療法学	地域における理学療法士の役割を知る。保険制度を理解する。	2 後	30	2		○	
○		保険医療福祉制度論	制度を知ることで、理学療法士として働くことを理解し、制度の枠の中で考えていく視点と制度の枠を超えて考えていく視点をつけていく。	2 後	30	1		○	
○		理学療法実習Ⅰ	実際の臨床の場の雰囲気を知るとともに、対象者とのコミュニケーションのとり方について体験する。	1 前	45	1			○
○		理学療法実習Ⅱ	1 年次において履修した医療面接ならびに検査・測定技術を、臨床実習指導者の指導の下で体験する。	1 後	45	1			○

○			理学療法実習Ⅲ	理学療法現場の見学とカルテからの情報収集、検査・測定より得られたデータを学内に持ち帰り、対象者の障害像を構築し、対象者の問題点を把握することができる。	2 前	45	1			○
○			臨床実習Ⅰ	これまでの実習経験や学内で得た知識や技術を元に、評価を実際に実施理解する。評価結果を元に、統合と解釈・問題点抽出を行い、治療プログラムを立案する。	2 後	135	3			○
○			臨床実習Ⅱ	これまでの実習経験や学内で得た知識や技術を元に、評価を実際に実施理解する。評価結果を元に、統合と解釈・問題点抽出を行い、治療プログラムを立案する。	3 前	135	3			○
○			臨床実習Ⅲ	評価実習で学んだ評価を元に、ゴール設定や治療、そこからの再評価といった理学療法の流れを経験する。	3 前	360	8			○
○			臨床実習Ⅳ	評価実習で学んだ評価を元に、ゴール設定や治療、そこからの再評価といった理学療法の流れを経験する。	3 後	360	8			○
○			臨床理学療法演習Ⅰ	理学療法実習Ⅰの実習後に、成果の確認として発表、実技練習、実技試験などを行う。これにより知識の復習と、自己の問題点を確認し先に役立てる。	1 前	30	1			○
○			臨床理学療法演習Ⅱ	理学療法実習Ⅱの実習後に、成果の確認として発表、実技練習、実技試験などを行う。これにより知識の復習と、自己の問題点を確認し先に役立てる。	1 後	30	1			○
○			臨床理学療法演習Ⅲ	学習してきた評価を実践し、問題点の抽出までの流れを理解する。	2 前	30	1			○

○			理学療法形成論Ⅰ	前期は、自己紹介および臨床で必要な面接の方法とレポートの書き方を理解する。後期は、評価技術の練習および解剖・生理学の予習を中心に行い、理解を深める。	1	30	2	○		
○			理学療法形成論Ⅱ	前期は1年時に学習した基礎医学の復習。後期は基礎医学や評価手技を元に、応用を行っていく。	2	30	2	○		
○			理学療法形成論Ⅲ	前期は1年時に学習した基礎医学の復習。後期は基礎医学や評価手技を元に、応用を行っていく。	3	30	2	○		
○			ホスピタリティデザイン学	学生・社会人としての礼儀作法を身につける。	1前	30	1		○	
○			コミュニケーション学	医療・福祉の現場で求められる“心の通い合う人間関係”を構築するためのノウハウやスキルを身につけることを目的とする。	1後	30	1		○	
合 計					74 科目	3,615 単位時間				